令和元年度　第３回（震災後９３回）

テーマ：「子育てするなら陸前高田！！
　　～子育て×高齢者×地域　多世代交流マッチング～」
日　時：令和元年１１月１４日(木)　１３：３０～１５：３０
場　所：陸前高田市コミュニティホール　大会議室
参　加：47 名 24 団体
資　料：別紙参照

１　開　会
２　挨　拶　陸前高田市　福祉部長　齋藤晴美
　未来図会議は今年度３回目の開催で、今日のテーマは子育て支援。先日の産業まつりに併せて開催したＡＩＤＳ文化フォーラムでもお世話になったノーマライゼーション大使の岩室先生、佐々木先生にも参加していただいており、AIDS 予防や病気のことだけでもなく、人と人とのつながりを大事にしていくことが大切と学んだ。今回は、子育て支援を切り口に人と人とのつながりについて考える機会にしたい。また、子育て支援施策を計画的に進めていくために、本市でも第２期が来年度４月に始まる計画策定をしている。1 月過ぎにパブコメ予定となっている。
３　内　容
⑴　「未来図会議／本日のテーマについて」
陸前高田市　福祉部保健福祉課保健係　保健師　蒲生　惠美
　この会議は、健康や幸せを感じられるまちづくりを目指している場。本日もたくさんの方に参加いただいているが、立場も職種も色々。はまかだを合言葉に、人と人とが集まることで心が癒され、対話を通じてヒントを得たりアイディアを共有する機会としてほしい。はまかだは、活気作り、防犯や経済効果、まちの利益につながる合言葉として推進している。
　子育て家庭だけではなく、皆で情報共有することで子育てしやすい環境につながるのではないかと考えテーマ設定した。
⑵　「活動発表」
①　ふれあい工房１日体験デーについて
陸前高田市シルバー人材センター　大西こずえ　氏
＜活動内容＞
　地域の人づくりの手助けをするため、会員の知識・技能・技術を次世代に伝承することを目的にH22 年１月から始め、来年の冬で 12 回目を迎える。平成 29 度より夏・冬年 2 回の開催で、対象は小学生。
　10 年前に趣味経験を活かしたサークル代表者が集まって、検討会を行い、機織り、木工、手芸、お菓子作り、障子張り、書道、民謡の 7 つの教室を開講することで始ま

り、講師は各サークルの代表が中心となって行っている。震災があり、一時機織り教室・書道教室が無くなり、平成 29 年度に機織りサークルが活動を復活し、教室としても再開した。現在は、書道教室を除く 6 教室に生け花教室・陶芸教室・竹細工教室が加わり、9 教室開催。H24 年度から子育て支援わんわん広場を同時開設し、未就学児の兄弟を参加時間中無料で託児している。

＜参加者の反応＞

参加児童からは「楽しかった」という声が多く、祖父母世代と楽しく交流をしながら作品作りに取り組めた様子。

＜今後＞

12 月初旬に第 2 回 1/13 の案内をする。今後もたくさんの子どもの声が聴けることを楽しみにしながら、より一層楽しめるイベントにしていきたい。

〇質問　参加前後で子どもたちの様子は？

大西氏⇒開会式の時はそれなりに緊張しているが、違う町の子どもと友達になれるから参加するとの声もある。

岩室氏⇒子ども同士の交流の場面としても素晴らしい。

②　しめ縄づくりについて

川の駅組合グリーンツーリズム部会　事務局　村上巳喜男　氏

＜活動内容＞

川の駅は、来年 13 周年を迎える。川の駅組合は、産直部会、食堂部会、グリーンツーリズム部会の３つで構成。

グリーンツーリズムは、年間を通し活動し、夏には、親子夏休み体験として川で化石拾いや魚釣り、12 月にはしめ縄、ミニ門松、2 月には藁草履作り等を行っている。グリーンツーリズム部会は 12 名で活動。

10 年の継続により、企画は慣れている。自分たちが面白ければ、お客さんにも喜んでもらうことができる。だから、無理がないようにやっている。地域では、もてなすことが当たり前だが、無理しないことで長続きすると感じている。

しめ縄を作るには、夏の暑い時期に草を採ってくれている住民がいる。高齢者は教えることが楽しいので、頼めば来てくれる。参加者は会費 1500 円（昼食代、講師謝礼、材料代、保険料）。ミニ門松は一番コストが高いが、一番人気。スタッフは 12 名+講師 1～2 名で対応するが、参加者 25 名で手一杯。自然を相手に遊んでいる。イベントの時は、無料はダメと個人的に思っている。子どもが集まれるイベントをすると親も参加してくれ、人が集まる。

〇質問　子どもに人気があるのは？

村上氏⇒魚を釣った時や化石を見つけた時が嬉しいようだ。

岩室氏⇒学校で習うことも大事だが、地域に出て実際触れる感動も大切。是非子どもたちを巻き込み続けてほしい。

③　りく mama＋の活動について

りく mama＋ 藤沼典子 氏　蓑島さやか　氏

＜サークル概要＞

子育て中のママによるママのためのサークル。2015 年 10 月設立。無理しないことをモットーとし、参加するママの子どもをみんなで見守りながら開催している。サークル名には、ママ+子ども、ママ+地域、ママ+知識というように、どんどんママにプラスしていこうという意味を込めている。設立理由は、提供してもらう場と自分たちのやりたいことをやる場として、充実したい、自分磨きをしたい、ママたちも社会とつながりたいという思いから。これまで延べ 40 名のママが参加。

＜活動内容＞

週１回毎週火曜日開催。月１・２度イベント開催し料理や制作活動を行う。クッキングは特に人気で七夕そうめん・お雛様クレープ・ハロウィンサンドと、自分達も楽しめるイベントを考えている。異世代交流ということで、祖父母にも参加してもらったことがある。90 代の曾祖父母で、転勤で祖父母が近くにいない場合もあり交流を経験できた。

＜今後＞

子供の成長に伴って、買い物や銀行に行くことも大変になる。ちょっと見てもらいたい、責任が生じることだが、助け合い、信頼しあえる環境ができてほしい。育児を抱えこまず、話し合い、助け合い、仲間とのはまかだを大切に安心できるサークルを目指し、今後も長くゆるく続けて行きたい。

〇質問　他にもサロンがあると思うが、対抗せずに住み分け継続しているコツは？

蓑島氏⇒すでにたくさんある中で、お母さん同士の派閥になるから作らないほうがいいという意見もあったが、イベントやサークルの雰囲気を選べるようにしたかった。今は「こんなのもある」と受け入れてもらっているので、あまり気にせずゆるやかにやってきたのが良かった。

岩室氏⇒別の集まりで「引きこもっている人をどうすれば引っぱり出せるか？」という話が出た。引きこもるのは、自分に合うメニューがないから。合うメニューがあれば出て来る人がまだいるはず。色々な人が活動していて、行きたい時そこに行くという、緩やかな、お互いを認め合い、変に張り合わない地域づくりが大事。火曜と限定している所も良い。選べるというのが、とても良いと思う。緩やかさとつながりを今後も大切にしてほしい。

⑶　参加者の皆さまと“はまってけらいん、かだってけらいん”

（内容　①自分ができること・得意なこと。②こうなったらいいなと思うこと。）

【グループ１】

①自分ができること、得意なこと	②子育てについてこうなったらいいな
・改めて何かするよりも川の駅のように地元でできることをすることが大事 ・地域の魅力や遊び方を知っているのは地域の先輩方です ・そういうところとつながっていくことが大事 ・ゆるく、無理なく続けられることが大切 ・栃ヶ沢のみなさんと、きらりんがつながってお茶道の会を設けた ・地域を知っているのは女性、まず女性に相談できることが大事、女性を巻き込めること ・その人の長所、得意なことを活かしながら進められること ・お母さんたちが持っている経験やスキルを活かし、伸していけるといいのではないか	・上手に資源を活用する‥ ・世代間交流できるように‥ ・パパの参加しやすさ ・中高生や次世代の子たちも巻き込めるといい ⇒得意なことをゆるやかにつなげていけると

【岩室氏コメント】

「自分達ができること」と、「こうなったらいいな」のギャップに気付いた。「できることを柔軟にやりましょう、緩やかにつながって女性の特性を生かしてつながりましょう」と言っていたのが、要望になると「あれがほしい、では誰がやる？」となってくる。ギャップが「緩やかなつながり」を阻害している要因でもある。自分ができること・得意なことをつないでいきましょうという方が、何となくほっこりする感じになる。できる人ができることをやろうというすばらしいアイディアが出た。

【グループ２】

①自分ができること、得意なこと	②子育てについてこうなったらいいな
・子どもと一緒に遊ぶこと ・親御さんのお話を聞ける 　⇒話しを聞くことで悩みや環境などを聞くことで、振り返りや落ち着きにつながる 　⇒親だけで子育てをするのではない	・アバッセのような（公園など）あるといい ・子どもの声をきくことがないので、子どもと一緒に遊べること ・ふれあい体験で一緒に子どもと活動する ・子どもと高齢者が見守りあえる地域 ・地域全体で子どもを見守れる ・近所の子どもを大人が叱れる関係性 　⇒はまかだすることで、できることがうまれる

〇質問　親御さんの話を聞く事が大事とは？
⇒聞く事で親御さんの悩みだったり、自分の置かれている環境、話を聞く事しかできないが、そうやって少しでも気持ちに耳を傾け気持ちを落ち着けることで、子どもに優しく、自分をふり返ってもらえればいいと考える。

【岩室氏コメント】
子育ては、親・保護者だけがやる雰囲気だが、それに追いつめられる保護者がすごく多い。聞いてくださる場がいろんなところにあるのは素晴らしい。ぜひ、これからも丁寧にやっていただければと思う。

【グループ３】

①自分ができること、得意なこと	②子育てについてこうなったらいいな
・仕事：集りの場づくりの支援 ・個人：声をかけていただければできることある ・川の駅の活動、関心を持った ・音楽が好き、趣味なので、集まる場がある ・肉体労働でできること ・料理 ・人の話をきくこと、はまかだ	・子どもと高齢者が見守りあえる地域 ・地域全体で子どもを見守れる ・近所の子どもを大人が叱れる関係性 ⇒はまかだすることで、できることがうまれる

【岩室氏コメント】
はまかだすれば、できることが見えてくるが、なかなか機会がない。地域でその機会を作れば地域でできることも生まれるのかなと思う。

【グループ４】

①自分ができること、得意なこと	②子育てについてこうなったらいいな
・本を読む ・うた、手遊び ・多職種をつなげる ・青年会議所 ・森遊び（たかたの森遊び）、野遊び ・子育ての相談、 ・保育の臨床心理相談 ・グループでFBでつながった ・こうして会えること、つながれること ⇒こういう意識の人が、ゆるやかにつながれるといいのでは	・地域全体で子育てできる ・情報の格差ある ・ゆるく、大きな井戸端会議できるところ ・巡回の保育カウンセラー ・病児保育。。できるらしい？ ・小さい遊びがたくさんほしい、身近な場所が遊び場に ・あぶない、きたない、うるさいを見守れる大人

【岩室氏コメント】
つながることが第一歩。この意識をもっている方を緩やかに増やしていくといつの間にか情報をシェアできている。決して義務感ではなく、緩やかにつながっていくことでできる。ツールも活用してつながっていければ。

【グループ５】

①自分ができること、得意なこと	②子育てについてこうなったらいいな
・みちくさハウス：親子の居場所づくり ・ママの居場所づくり ・保育所：一時預かり、保育園の園庭の解放 ・スポ少でテニス ・吹奏楽で生音にふれあってほしい ・他の子を少しだけあずかることできるかも	・まちで子どもを見てくれる環境 ⇒行政ではなく、地域で ・ほかの子を少しだけ預かる習慣、根付くと ・自然とふれあう機会がママも子も穏やかになる ・子どもの声が聞こえるまちになったら嬉しい ・土日に病後児保育があるといいな ⇒子どもたちに関する地域

〇質問　「まち」で子供を見てくれるの「まち」とは？地域？行政？
⇒「地域」です。

【岩室氏コメント】
まちとは、地域。病後児保育はともかく、ほかはすぐできそうな事ばかり。地域に持ち帰り、地域で少し話すと「できる」という話も出るのでは。地域では高齢者ケア会議等行われているが、子どもたちに関してもそういう場面が増えていくかと思う、その輪に参加し情報共有していただきたい。

【グループ６】

①自分ができること、得意なこと	②子育てについてこうなったらいいな
・	・近所の人でみてもらえるといい ・子どもと一緒に出勤、仕事できること ・子連れで行きやすい、職場、お店ってなんだろう？？ ・近隣の方に頼られる立場になると、つながりやすくなるのでは ⇒車に乗せてもらえるなどから、預かってもらいやすくなるのでは ・気軽に子どもをあずかってもらえる場所があると ・気軽に、緩やかに、がキーワード ・保育園には限界ある（制度的に） ⇒他の自治体によっては預けやすいところもあるようです ⇒保育園の活用についても議論しよう

【岩室氏コメント】
国は様々な分野で規制改革をやっている。特区で新たな試みをすることも不可能ではない。近所の力を借りるということが多かったが、保育園をどうするかという議論も大事かもしれない。保育園に任せるのではなく、周りの皆さん・ママが情報を集めていただけるといいのかなという発表だった。

【グループ７】

①自分ができること、得意なこと	②子育てについてこうなったらいいな
・ママへの栄養指導 ・お茶会できらりんさんとつながった ・出会いの場がなく、婚期が遅れている？ ⇒昔は仲人さんがいたけれども、今はいないよね 出会い系サイトもある ゲームはどうしたらいいの？ ⇒お葬式の家族葬をやめる 「死」を見ていないことが問題 気づいたことをできることに 陸前高田では世代間交流がされている 民泊も子どもたちを元気にしている	・理想と現実 ・子育て ・子育てのベテラン ⇒子育てを手伝ってしまっている 育てづらくなっていないかな？ ゲーム、マンガに没頭している？ 人は死んでも生き返らないと知らずに事件なども起しているところもあるのでは？ 昔と違い、核家族化が進み、一緒にご飯を食べてない（食べよう） お年寄りに学ぶこと大切 みんないい子になると思う 相手のことも理解できる子に

【岩室氏コメント】

出会い系アプリも多く使われている。「ゲームがだめだからゲーム禁止」は「排除の発想」なので解決策にならない。どうすればいいか？葬式を見直し、家族葬をやめる。都会では子どもたちは「死」を見ていない。大事なのは「自分ができることは何なのか」。要望をディスカッションすることで見方が変わり、できることが見えてくる。お年寄りから学ぶことはとても大事。様々な場面で世代間交流が必要。陸前高田はそれが良くできているが、もっとそういう場面に子供たちを送ることができれば。来月、陸前高田市に民泊している中学校に講演に行く。民泊で子どもたちが元気なっている。

【グループ８】

①自分ができること、得意なこと	②子育てについてこうなったらいいな
・お話をよくきく、整理する ・いつでも笑顔で人に接する ・一緒に楽しむ、気持ちの共有、成長を喜ぶ、あなたと一緒にいる ・全力で走り回る ・研修会に参加し、スキルアップ ・絵本の読み聞かせ ・ボランティアしたいけれども ・	・お母さんが困ったという声をあげられる環境 ・助けてというメッセージ、助けられる ・ちょっと子どもを預けられる ・自然がある、学べる、経験できる ⇒山、川、海あるので、自然遊びを通して親子でコミュニケーションとれる ・子どもと一緒に入りやすいレストランやお店⇒ママもゆったり楽しめる ・子どもの成長にあわせ、（子どもにとって）話せる大人がいると ・パパも気軽に参加できるイベント ・小さいお子さんが参加しやすい世代間交流できる ・子育て中の大人も、居場所があること

【岩室氏コメント】
子供と一緒に入りやすいレストランはどうやって作ったらいいか？近くに流行っている店があったので入ってみた。2 階に子育て中のお母さんたちが集まれる広場があり「集まれれば料理は二の次」という雰囲気でたまっている。そういう店を作れば繁盛するのでぜひ高田でも実現して頂きたい。子どもが行ける店は流行る。成功例があるなら自分もやろうと思っている方、ぜひやってほしい。

＜本日のまとめ＞　岩室紳也　氏

必要とすることと要求は違う。子どもに何が欲しいと聞くと「あそび場」とは言わない。「ゲーム」と言うが、遊び場を与えると「いいな」ということになる。本当に必要としていることは、気付かない。つながりが大事だとここに来て実感する方はいるが、地域に戻ると意外と無い。

先ほど「助けて」という声の話があったが、「助けてが言えない」という本がある。助けてと言ってと、思ったらダメ。一方で、大船渡病院の村上先生が教えてくださったカール・ロジャーズの「人は話すことによって癒される」。女性の自殺が少ないのは喋るから。「相談しなさい」とよく言うが、相談を広辞苑で調べると「他人に正解を教えてほしい」と書いてある。お互いに意見を出し合うことで、実は相談になっている事を昔の人は知っていた。コミュニケーションとはおしゃべりすることだと思いがちだが、語源は「分かち合うこと、共有すること」。共有するためには当然しゃべらなければいけない。しゃべることが大事なのを教えてくれる最近のベストセラーが「雑草」。効率化だけを求めても成果は上がらない。ひたすら効率だけ求めたチームは急に社員が辞めてしまう。チームなのに助け合わない、ぎすぎすしている、新しいことに挑戦しない。ではどうしたらいいか？

子どもが大きくなったとき意識しなければいけないのがひきこもり。あまりにも甘やかすからひきこもりになるのか？違う、対話がない。対話とは何か？斎藤環先生に教わった事だが「面と向かって声を出し、言葉を交わすこと」。思春期の問題の多くは対話がなく、コミュニケーションが欠如しこじれていく。しゃべればいいだけ、世代間交流含めて。議論、説得、正論、叱咤激励、これは対話ではなく独り言である。皆さんの勝手な独り言だが、それがしばしば事態をこじらせる。外に出させたい、仕事をさせたいという下心はとりあえず脇に置いて、本人の言葉に耳を傾けましょう。基本的姿勢は相手に対する肯定的な態度。なかなか難しいがそのままのあなたでいいではなく、あなたの事をもっと知りたいという姿勢。

皆さん LOVE を日本語で何と言いますか？愛ですよね。愛の反対をご存知ですか？愛の反対は無関心。最初の翻訳は「大切」だったそうです。あなたの事大切、例えば皆さんに「I　love　you.」と言ったら気持ち悪いと思いません？でも本当は大切な仲間ですよという意味なんです。子どもたちの事を愛しているのであれば「何でそう言う事言うの？」ともっと関心をもっていただければと思う。対話の目的は会話を続けること。相手を変えること・何かを決めること・結論を出すことではない。まさに未来図会議の目

的「続けること」である。続けることに意味があると先ほどの話にありましたが、逆に相手を変えようとする、何かを決めるようにするという方は、ぜひこのカール・ロジャーの言葉を持ち帰って頂きたい。「助けることができない唯一の人は、他人を非難する、他人のせいにする人です」すごい言葉。「あいつが悪い」と言っているうちは、結局責めて誰かの責任にしてしまうということ。

私が昔から好きな言葉俵万智さんの言葉。「つながるつながるつながるなかで私は私を見つけ出す」これは未来図会議で言われ続けている事で、できる人ができる時にできることをできるようにしましょうと。そのためにはつながって情報を共有し、次までにこれをやろうというシェアができると一歩ずつ変わり、良い町になっていくのかと思う。改めてそれができる環境なのだということを改めて実感させていただいた。

４　その他アナウンス等

11/23　10：00～15：00　たかたゆめキッチンフェス　ボランティアも募集
11/21　13：30～15：00　保健福祉総合センター　音楽療法士　千葉邦徳先生の会
11/28　13：30～15：00　保健福祉総合センター　はまかだ勉強会

５　閉会

★次回（第９４回）：令和２年２月１４日（金）１３：３０～１５：３０
会　場：陸前高田市コミュニティホール　大会議室（仮）
テーマ：「はまかだで、ほっこり（仮）」